

Sulpitia Cesis: Motetti Spirituali(Modena 1619)

Artemisia Editions, Complete collections by nun composers (MC1/C388)

以前も紹介したアルテミシア・エディションから出されている女子修道院の音楽のシリーズである。Cesis はモデナにある、アウグスチノ会、サン・ジェミニアーノ修道院で活躍した修道女である。1577年に生まれ、多額の持参金とともに修道院入りする。42歳のときにこの、モテット集を出版し、この1冊によって音楽史上に名をとどめ、その作品はモデナの Biblioteca Estense Universitaria が所蔵している。

モデナの年代記作者は、彼女の修道院の音楽文化の高さについて何度も言及しているが、そのなかで少なくとも2回、Cesis について述べている。この修道院のシスターたちはあらゆる種類の楽器をこなし、なかでも Cesis はすぐれたリュート弾きであったと述べられている。

彼女の作品は修道院で演奏されるためのものであったが、これをみるとその音楽的水準の高さが伺える。コンティヌオのパートがないが、これは無伴奏で歌われたことを意味しているのではない。修道院のオルガニストの名前も残っていることから、低声を支えるためにもオルガン伴奏が有効であったであろうと校訂者は述べている。

教会のさまざまな祝日のための作品が所収されているが、ユニークなのはイタリア語、つまり彼女の母国語による作品も共に入っていることである。Il mio piu vago Sole というキリストの受難を歌ったものだが、イタリア語俗語による、霊的マドリガーレに属する楽曲である。修道院で俗語による霊的作品が作られていたこと、さまざまな楽器の伴奏を伴って典礼、あるいは準典礼音楽が演奏されていたことは興味深い。この曲集は2声から12声までと、多様だが、男性の音域を支えるためにトロンボーン、ホルネット、ヴィオローネなどが用いられていたのではないかと周辺のドキュメントから推察されている。修道女たちが、自分たちの典礼における賛美の歌を自ら創作していたという教会音楽のひとつのすぐれた例証をここに見ることができる。

杉本ゆり